

# 災害から自らを守る方法; アジアと協同した社会科の役割

井田仁康 ; 筑波大学

# 1.本発表の目的

- 本発表の目的は、アジアの社会科教育と協同することによって、社会科における防災の視点を提供することである。
- 方法;
  - 1 防災に関する日本の社会科教科書の変遷に注目する
  - 2 日本の社会科教育における防災教育の特徴を明らかにする
  - 3 防災教育でのアジア諸国との協同の重要性を述べる
  - 4 アジア諸国との協同による社会科における防災の視点を提供する

# 日本の主要な災害 (2007-2016)

年	地震の回数	火山の回数	台風と洪水の回数
2007	7		5
2008	6		4
2009	3		3
2010	5		5
2011	16 (東日本大震災)	1	3
2012	13		7
2013	11		13
2014	8	2	15
2015	13	5	10
2016	12	1	10

## 2 防災に関する日本の社会科教科書の変遷

### 2-1 学習指導要領における防災

- 社会科と地理の学習指導要領における防災に関する項目

学習指導要領の年度	中学校 (G7-9)	高等学校(G10-12)
1977	国土の利用と環境保全(内容項目)	地域開発と環境保全(内容項目)
2008・2009	自然環境(防災を含む)(下位の内容項目)	自然環境と防災(内容項目) (1p:説明)
2017・2018	自然環境(防災を含む)(下位の内容項目)	自然環境と防災(内容項目) (6p:説明)

注1: 学習指導要領は10年ごとに改訂される。

注2: 高等学校において、地理は2020年から必修の科目になる。

注3: 1995年に西日本で大地震が発生した(阪神淡路大震災)。

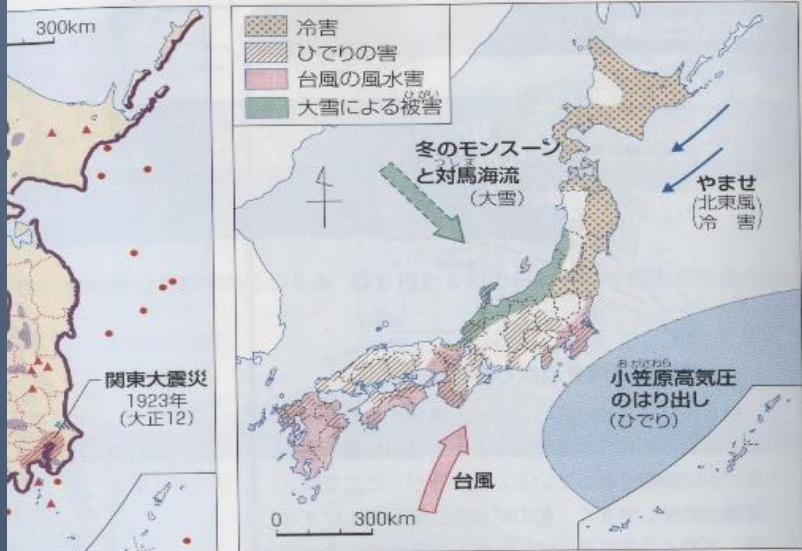
## 2-2.防災に関する教科書の変遷

### 社会科と地理の教科書における防災に関する記述

出版年	中学校(防災に関するページ数 / 総ページ数)	高等学校(防災に関するページ数 / 総ページ数)
1995-1998	2/233 (2001)	2/163
2002-2005	2/197	0/159
2013-2016	6/281	6/193
2020-	12/287	?

注1: 日本文教出版—中学校教科書  
二宮書店—高等学校教科書





- ①気候による災害(和達清夫「日本の気候」などより)それぞれの災害がおこる原因を予測し、調べよう。
- ②日本のおもな火山と地形による災害の発生地(新版「日本国勢地図」などより)

## 追究④

### 地形・気候の わざわいと防災

**地形と災害** 山がちで、地形も複雑な日本は、一般に景色がよく、各地にある火山は温泉をわき出させ、観光地や保養地となっ

て、人々を楽しませてくれる。しかし、火山の噴火によって大きな災害がもたらされることもある。

とくに、大地震の際には、山くずれや建物の倒壊、火災などによって大きな被害が生じる。海岸地方は、地震にともなう津波による被害を受けやすい。



④防災施設(岩手県田老町) 津波による被害を防ぐために、高い防波堤で町全体をおおっている。



①東海・東南海・南海地震の想定される震度分布(2003年9月) 国の中央防災会議により、近い将来おこるであろう地震の震源地域を示したものの。阪神・淡路地震の教訓によると、地震のおきたはじめての3時間は、ボランティアも、行政もじゅうぶんな活動をする事ができないため、自助努力がきわめてたいせつといわれている。

**気候と災害** 春と秋は、一年でもっともしのぎやすい季節であるが、春先にふりつづく寒々とした雨(なたね梅雨)や、梅雨の雨、夏から秋の台風による雨は、災害をもたらすことが多い。

- 5 梅雨の末期には、集中豪雨によりしばしば洪水がおこる。梅雨から秋雨のころにかけては、台風が接近したり、上陸したりして、風水害をもたらす。五月晴れの日などは、風もおだやかで、夜間には底冷えが感じられる。芽をふき出したばかりの果樹は、霜にやられることがある。

## “防災”の該当箇所

**防災へのとり組み** 自然災害には、地震、津波、火山噴火と山くずれ、地すべり、土石流などのような地形災害のほかに、風水害、ひでり、冷害などの気象災害もあり、風水害などは、しばしば地形災害をともなっている。148ページの左上の地図は、国内で自然災害が発生しやすい場所を、右上の地図は、東南海地震がおきたときの被害の予測を示している。

### 関東大震災の教訓

1923(大正12)年におきた地震で、被害は、死者・ゆくえ不明者は約14万人、家屋全半壊約25万、焼失家屋約45万であった。震災のおきた9月1日を「防災の日」として、各地でさまざまな防災訓練が行われている。

大きな自然災害に対して、たとえば、海岸部であれば防波堤や消波ブロック、山間部であればダムや落石防止設備など、地域の自然環境に応じておこなわれている。自分の住んでいる地域では、どんな備えに力が注がれているか、調べて



**特別警報**  
数十年に一度の暴風や大雨など、警報をはるかにこえるような現象が予想され、重大な災害の危険性がいちじるしく高まっているときに発表される。  
注)大津波警報、噴火警報、震度6弱以上の緊急地震速報も特別警報に含まれます。

**警報**  
重大な災害が発生するおそれがあるときに発表される。

**注意報**  
災害が発生するおそれがあるときに発表される。

東京都江東区 2 気象庁



③ 1週間ぶんの備蓄食料(1人ぶん)  
(徳島県立防災センター資料)

## “防災”の見出し

### 7 災害にそなえるために

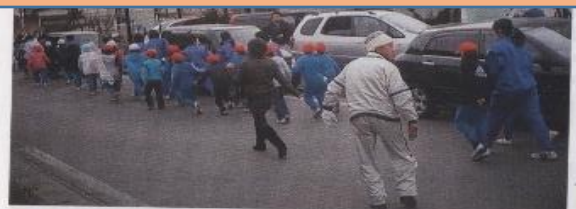
#### 防災と減災

日本では、明治時代以降、建設技術の進歩や経済発展にともなって、防災対策が進められ、堤防・ダム・防潮堤などが整備されました。また、観測技術の進歩によって、地震・津波・気象などの警報・注意報もより正確になってきて、警報・注意報を出すまでの時間も短縮されました。その結果、自然災害の被害は大幅に少なくなりました。

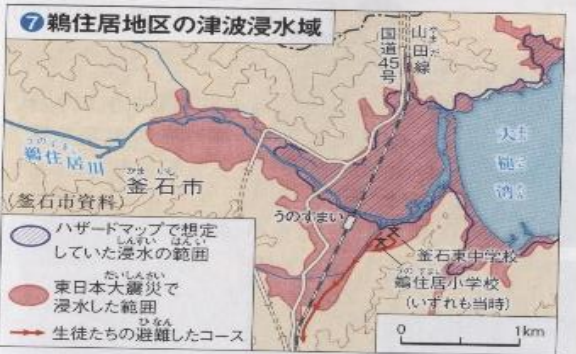
しかし、技術と費用には限界があり、これらの防災対策だけでは災害を完全に防ぐことはできません。国・県・市町村などの機関と地域住民が一体となって、災害の被害をできるだけ少なくする減災に取り組んでいく必要があります。

#### ふだんから住民や地域で行う防災

防災や減災のためには、災害が発生する前に、日常生活のなかでふだんから行う防災対策が重要です。自然災害が発生したときに、どこでどのような被害になるかを予測したハザードマップなどを参考にして、地域で予測される災害について理解し、対策を立てておく必要があります。



⑥ 避難のようす(2011年、岩手県釜石市)



なさんは、自分や家族の命を守ることに(自助)に加えて、地域社会の一員として地域の防災にも役立つこと(共助)が期待されています。

#### 災害発生時と直後の防災

大きな災害にあったときに何より大切なことは、自分の命を守ることです。例えば、地震の場合は、物が「落ちてこない、倒れてこない、移動してこない」場所に身をよせて、ゆれがおさまるのを待ちます。津波の危険がある場所では、すぐに高いところに避難する必要があります。大雨や高潮による洪水・浸水のおそれがある場合も、早めの避難がたいせつです。避難するときには、警報・注意報などの防災情報から予想される災害の種類や規模、自分がいる場所の地面の高さ、海・河川からの距離、近くの避難場所と避難経路をあらかじめ理解していれば、より適切に判断し、行動することができます。

大きな災害が発生したときには、国・県・市町村や消防・警察・海上保安庁・自衛隊などが被災者に対する救助活動を行います。

地理 プラスα 災害・防災 「釜石の奇跡」

東日本大震災が発生したとき、釜石市鶴住居地区の生徒と先生が中学校から約700mはなれた山に避難した。しかし、避難場所の裏山でがけが急なため、避難場所まで移動して、津波からのがれることは、いっしょに避難している小学生の手を借りて、カートを押し、地域住民に避難をよびかけた。この行動は「釜石の奇跡」として、世界じゅうに知られるようになった。

実は、釜石東中学校は、ハザードマップで指定された避難場所を選んで避難した。しかし、震災の前から、地域住民が防災マップをつくるなど、さまざまな防災活動をしてきた。アス海岸では津波が高くなること、中学校や小学校の避難場所など、生徒たちは知っていたので、避難の訓練、とっさの的確な判断によって、多くの命が救われた。

**自助**

- 建物やゆれに注意
- いざというときに相談しておく
- 自分から進んで避難

**共助**

- 被害者をすぐ救助
- 被害を受けていない人を助け
- 強い地域づくり

**公助**

- 防災や災害復興のために協力
- さまざまな対策

**避難3原則**

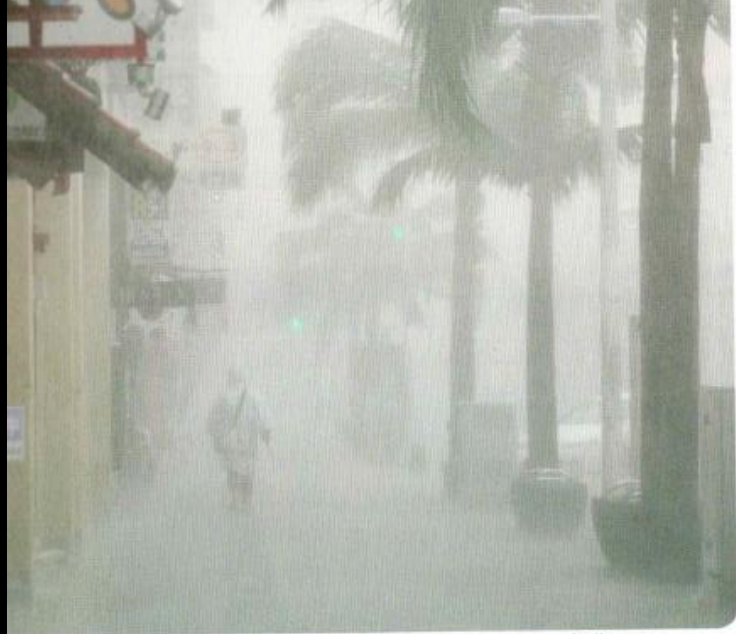
- 想定にとらわれず
- 最善をつくせ
- 率先して避難

⑧ 自助・共助・公助

学習の確認

確認 釜石東中





①台風によっておきた豪雨 (2012年, 沖縄県那覇市)



②鬼怒川のこう水と救助活動のようす (2015年, 茨城県東茨城町)

### 3 自然災害から人々を守る

### タイトル: 自然災害から人々を守る

日本では、どのような自然災害がおこっているのだろう。



さまざまな自然災害 れんさんたちは、自然災害について、①、②の写真を見て話し合っています。



沖縄県は台風が来る回数が多いので、台風に備えてくまもりをしていたよ。



水が屋根まできているね。低い土地の岐阜県海津市は、井から水害を減らそうと努力をしていたね。



③の年表を見ると、日本各地で自然災害がおこる人の人が被害にあっていることがわかるね。

#### 自然災害



自然環境の急変により、人間の命や財産などに対して、悪いえいきょうをおよぼす被害のこと。

台風・こう水・土しゃくずれ	
1982年	7.8月豪雨および台風10号 (439人)
1983年	梅雨前線による豪雨 (117人)
1993年	豪雨 (79人)
2003年	梅雨前線による豪雨 (23人)
2004年	台風23号 (98人)
2009年	中国・九州北部豪雨 (36人)
2011年	台風12号 (98人)
2012年	大雨 (33人)
2013年	台風6号 (25人)
2014年	広島県土砂災害 (77人)
2015年	関東・東北豪雨 (14人)
2016年	台風10号 (27人)
2017年	九州北部豪雨 (41人)

地震 ●は、	
1983年	日本海
1993年	北海道
1995年	阪神・淡
2004年	新潟県
2007年	新潟県
2008年	岩手宮城
2011年	東日本大
2016年	熊本地震

1981年	雪害 (15)
1984年	雪害 (13)
2005年	豪雪 (15)
2010年	雪害 (13)
2011年	大雪 (13)
2013年	大雪 (10)
2014年	大雪 (95)

2005年の日文社の小学校5年生の社会科教科書



# 要約

- 1995年以前は「自然の恵みと畏敬の念」と題して、火山などによる多くの温泉など恵みと同様に、自然災害が多いことが記述されている。
- 日本は1995年と2011年に阪神淡路大震災（西日本）と東日本大震災といった大震災を経験している。
- 社会科では、これまで防災が注目されてきた。特に大震災の後は、学習指導要領や教科書でも防災が重視されるようになってきた。
- 教育において知識だけでなく、行動もしくは参加が重要であることを明示化している。

# 2011年以降の自然災害に対する教科書の変化

2011年以前

「何が起きたのか」

自然災害に関する知識



2011年、2015年以後  
「何が起きたのか」

と

「私たちの命の守り方」

災害から守るための自然災害に関する知識や役立つ知識、批判的思考と行動。言い換えると地理の知識と地理らしさ (powerful knowledge and powerful feature)



### 3. 生徒の視野を世界へ広げる防災教育

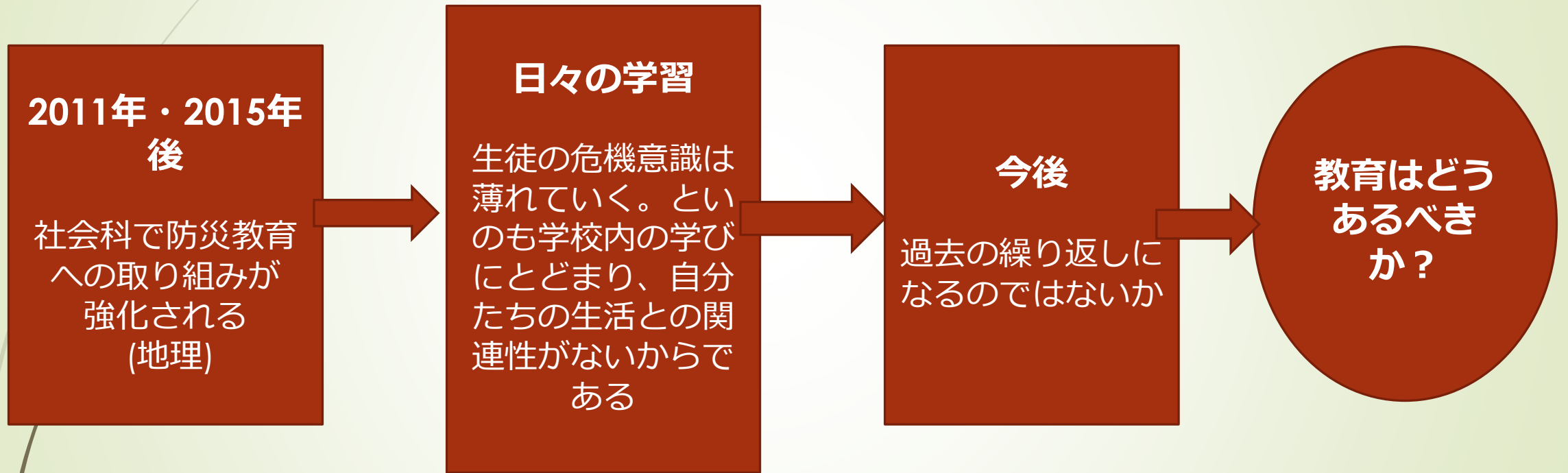
- 日本において、命を守るための防災教育が行われてきた。
  1. 自助や共助、公助の考え方は生徒にとって確かなものになった。
  2. 授業におけるハザードマップの活用に関心が高まってきた。

しかしながら、生徒は、小学校から高校までの防災教育が教師から与えられた生活圏(身近な地域)が中心となっているため、興味や関心をもちにくいだろう。

生徒は学習している内容を過去の出来事として認識するようになるだろう。

生徒の危機意識(urgency)が薄れていくだろう。

# 防災教育の流れ





## 4. 今後の社会科における防災教育

① 日本もしくは、日本国内で自然災害が発生すれば、社会科の授業で可能な限り迅速にその地域の災害状況を取り上げたり、生徒が住む地域の防災の状況を振り返る。



・ 生徒は日本で災害がいつ何時でも起きうることを認識する。

→ 生徒に危機意識(urgncy)をもたせる

そのためには柔軟にカリキュラムを編成することが必要だろう(vs定められた学習指導要領)

→ カリキュラムをマネジメントすることが教師に求められる。

## ② 世界の災害を学習する。

→ 生徒の視野を日本から世界、特にアジアへと拡張する。

- ・ 自然環境における違いによって災害が異なる。

例えば、日本とタイの洪水の違い

乾燥地帯における主要な災害である山火事

アジアでは異なった災害が起きること

→ 防災に関する知識を育み、生徒自身の防災を振り返り、そして他の地域や国々で自分たちができることへの気付きを促す



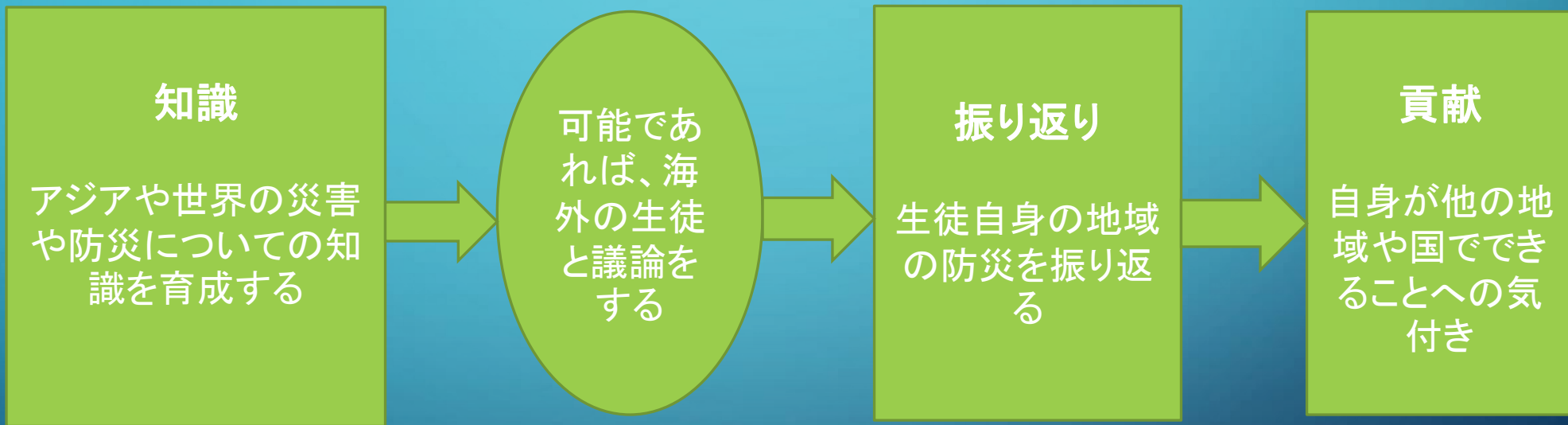


バンコクのチャオプラヤ



カリフォルニアの山火事

# 日本からアジアや世界へ; アジアの災害や防災への気付きの重要性



## 5. 結論

- 小学校から高校までの繰り返し行われる学習では、重要な防災の内容に飽きてしまう。生徒には新しい刺激が必要である。

→ 自分とは異なる環境の防災を学ぶことは生徒にとって刺激的になる。  
重要なパートナーとはまさにアジア諸国である。

結果として、防災に対する知識や反省、貢献といった生徒の資質・能力を育成することは可能だろう。

これを実現するために、以下ことが必要不可欠である。

- ① 社会科の柔軟なカリキュラムを編成すること
- ② 教師たちが防災のために、アジア諸国の生徒同士で情報交換をさせたり、オンラインで交流をさせたりすること(時差はあまりないので)

理想的として、アジアの社会科の教師たちでコンソーシアムが開催されるを期待したい。